



みんなの力で 作り上げる「統計」

統計局総務課支出負担行為係

小夏 憂樹 KONATSU Yuki

平成22年 4月 入省
 統計局統計情報システム課最適化企画係
 平成24年 4月 統計局統計調査部国勢統計課労働力人口統計室
 企画指導第二係
 平成25年 8月 統計局統計調査部国勢統計課企画係
 平成29年 4月 統計局統計作成支援課企画指導係
 平成31年 4月 統計局事業所情報管理課企画係・指導係
 令和 2年 4月 現職

Q 総務省統計局に決めた理由

「誰かのために」

入省前は「人の役に立つような仕事がしたい」と思っていたものの、これといってやりたいことがなかった私が官庁訪問で最初に訪問したのが統計局でした。そこでテレビなどで耳にする数字が統計局で作成される統計だと知り、こういう形で人々の暮らしに(直接的ではないが)役立つような仕事もあるのだと思い、統計局の仕事に魅力を感じました。

Q 現在の仕事と今までに担当した仕事

「統計をつくるだけじゃない」

入省してから10年経ちましたが、最初は統計に関する情報システムの企画、それから国勢調査、経済センサスと大規模周期調査の企画・実施に関する事務(統計をつくる仕事)に携わってきました。そして、現在は総務課支出負担行為係で、各調査で使用する用品の調達などの契約業務といった、「統計を支える」仕事をしています。



Q 仕事の魅力とやりがい

「どんな仕事もチームワークで」

国勢調査や経済センサスなど調査の規模が大きくなればなるほど、仕事内容・関係者も多くなります。特に統計局の統計調査は、調査用品の作成を依頼する民間事業者、実査を担う地方公共団体、集計を担う独立行政法人統計センターをはじめ関わる人も多彩です。いろいろな人たちの力で作成される統計は「努力の結晶」と言っても大げさではないと思います。

その裏には、もちろん楽しいこと、勉強になることもありますが、一人の力では乗り越えられない難しい仕事も多くあります。そんなときは、信頼できる上司や同僚の力を借りてチームワークで乗り切ることが大切だと感じました。

Q 皆さんへのメッセージ

「「おかげさま」の気持ちで」

統計局は「統計をつくる」仕事、「統計を支える」仕事の両方で成り立っています。どのような立場であれ、常に「おかげさま」の気持ち(謙虚さ)をもって向き合い、みんなが同じ目的に向かって力を尽くすことが大事です。統計局は一人の力ではなく、みんなの力で作り上げる仕事ができる職場だと思います。少しでも興味があれば、是非統計局に足を運んでみてください。

Q1 総務省統計局は、どのような業務を行うところですか。

統計は、「社会の情報基盤」として今日の行政運営や企業の意思決定などに必要不可欠なものになっており、統計なくして国家などの運営は成り立ちません。総務省統計局では、国勢調査を始めとする国の重要な統計を企画・立案及び実施し、社会に役立つ客観的で正確な統計を作成・提供しています。

Q2 最近の採用実績について教えてください。

令和2年度一般職試験(高卒者試験)の採用者数は8人、うち、女性は3人となっています。過去3年間の採用状況は右のとおりです。

採用実績	
平成30年度試験	11(6)
令和元年度試験	6(2)
令和2年度試験	8(3)

※人数は、各年度の国家公務員一般職(高卒者試験)採用者数(括弧内は女性の内数)

Q3 採用後の配属先、勤務地はどうなりますか。

採用後は、総務省統計局の各課に配属となり、所管する統計調査の企画・指導・公表等の業務や、統計調査に係る業務を後方支援する庶務・会計等の業務を担当することになります。勤務地は基本的に東京都内となります。

Q4 配属後はずっとその部署で勤務するのですか。

配属された部署によって異なりますが、おおむね、数年に一度、他の部署へ異動することとなります。本人の希望、適性に応じ、総務省内の他部署、他省庁、独立行政法人統計センター等に出向することもあります。

Q5 採用に有利な資格はありますか。

語学力、情報処理などの資格は歓迎しますが、特に採用条件とはしていません。あくまでも人物本位で選考します。

Q6 統計に関する専門知識がないので、不安なのですが。

採用後、新規採用研修を受講するほか、基本的な統計知識の習得から専門的な知識の習得まで、段階に応じた専門的な研修を行っており、心配ありません。その他、語学研修や情報システム研修など、様々な研修も行っています。

Q7 宿舎はありますか。

单身用宿舎及び世帯用宿舎があります。また、民間アパートなどを使用する場合は家賃の一部を住居手当で支給することになります。